

## 9月議会討論要旨・全議案に賛成

条例の一部改正で、小学生通院、中学生入院まで医療費助成対象が拡大  
・補正予算で、避難所への看板設置と同報無線の設計費計上、医療費助成対象者への受給証発想封筒に提案。

### 補正予算と医療費助成

議案45号 補正予算(第2号)について。民生費 児童措置費での総合住民情報システム費と事務費は、議案47号「鈴鹿市福祉医療費の助成に関する条例の一部改正」と関連、助成範囲の拡大は子育て支援の意味でも評価。受給者証を発送する際の封筒に、地域医療を守る意識啓発のため「コンビニ受診をひかえる、かかりつけ医を持つ、お医者さんにはどうと言う」などと印刷、もしくはチラシの同梱を提案する。

### 12月議会討論要旨・全議案に賛成

議案49号 補正予算(第3号)について。民生費 障がい者自立支援費7940万円の増額補正にあたり、年度当初にしつかりとした利用予想のもと予算立てを行うべき。また、不正の可能性も大きくなるから、しつかりとチェックを行なうべき。行政の意識改革を強く求める。外

### 補正予算について

・補正予算で、津波浸水マップ作成、放課後児童クラブへのAED設置補助、サンスボーツランドのテニスコート改修などが上げられる。・防災危機管理課の設置

### 防災危機管理課の設置

議案50号 平成22年度鈴鹿市国民健康保険事業特別会計決算の認定について、4億619万5191円の黒字決算があるが、平成23年度にうち約1億5千万円を国に返還、不納欠損での2億8516万5967円を考えれば、以前の保険料改定は必要であったと示している。

### 税条例の一部改正

議案第74号 鈴鹿市税条例等の一部改正について、市民活動をより活性化するよう、控除対象となる団体の拡大について、三重県の動向を情報収集しながら、鈴鹿市独自のあり方を検討するよう提言する。

### 指定管理者の指定

議案第76号 指定管理者の指定について、2年間の短期指定管理であることから妥当と考える。しかし、2点提言する。ホームレスの課題に真摯に取り組み、周辺住民への説明責任の所在を明らかにすべき。平成24年度に、指定管理の是非はもちろん、市におけるスポーツ戦略との関係から施設管理を再検討すべき。

待遇、江島カルチャーセンターの状況改善を指摘。

市行政全般において再度、手順やプロセスの見直しも含め、行政改革に取り組み、全体として行政サービスの向上に取り組むべきと提言。

### 国保会計決算について

議案53号 平成22年度鈴鹿市国民健康保険事業特別会計決算の認定について、4億619万5191円の黒字決算があるが、平成23年度にうち約1億5千万円を国に返還、不納欠損での2億8516万5967円を考えれば、以前の保険料改定は必要であったと示している。

### 一般会計決算について

議案52号 平成22年度鈴鹿市一般会計決算の認定について、放課後児童クラブの運営、単館公民館館長の

# 津波、液状化、豪雨洪水被害 それぞれの現場に行きました

昨年、東日本大震災、東紀州の水害被害と被災された地域を視察、また、ボランティアにも参加しました。

### 津波被害を目ににして

石巻市から女川町に行きました。石巻市門脇小学校では火災の跡がまだ生々しく、焦げた匂いがしました。周辺は津波ですべてが流され、土の中に未だ多くのガラス片などが残り、海岸線には津波被害の自動車が積まれ、病院周辺は地盤沈下をしていました。学校のブルー跡からの景色を見たとき、子供たちが夏にはしゃいでいたり、胸が詰まりました。



▲女川町、元は陸地に海水があふれています。

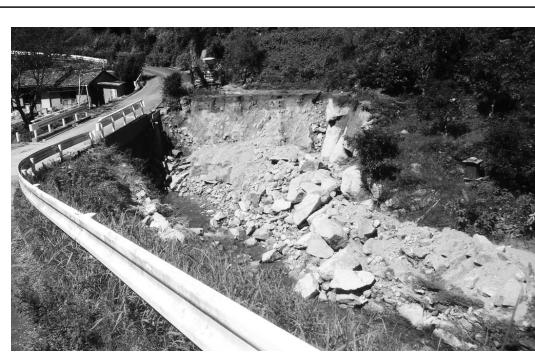
▶ プールの向こう、遠くに見えるのが市民病院です。元々は住宅地が目的前に立ち並んでいたはずですが…

女川町に至るまでは、被害の少ない地域と被害にあった地域が、交互に現れる状況でした。女川町の少し手前の集落は、それほど被害がないように見えても関わらず、少し高台に登りそこから女川町に入ると、津波の脅威をさまざまと見せつけられ、映像や写真で見るより、虚無感を強く感じました。



### 液状化も深刻です

防災安全特別委員会視察でひたちなか市と香取市を視察しましたが、こちらでは液状化のすさまじさに直面しました。



▲土石流のつめ跡、このすぐ下流に家が

### 大地震! その時、わたしはどうなる?

終わりに、鈴鹿市にとって、被災地で活動した職員の方々の経験は、非常に重要なことだと改めて感じました。それも活

かせるよう考えます。

このようなことを教訓としながら、鈴鹿市での減災や防災、復興などを含めた災害対策を今後も考えていく。被害を想定し、そこからこれからの方を考えていくことも大切と考えています。

### 今後も取り組みます

この経験は、なかなかお聞きしました。



▲道路を挟んで右は海、左は住宅地です

### 豪雨被害地でのボラ活動

紀宝町では家屋の泥だしボランティアに、個人として参加しました。ボランティアを求めているお宅に対し、集まつた人たちの中から手を挙げてお手伝いをしました。

メディアでよく取り上げられている地域ではありませんでしたが、山間部で見かける小さな川で土石流が発生し、同じように床下に泥がたまつたお宅の、泥だしのお手伝いをしました。

泥だしには、20代から40代の計8人がとりかかって、1日がかりで土嚢づめをしながら、大体の部分が終わつたという状況でした。

半島は発生後5~10分で津波がくるだろうといわれ、誰かに頼るのではなく、自分で動くしかないと思います。ですから、運転中も常に高台はどこか、どのように移動するなどを考えていました。その経験から、災害対応の際、自助、共助、公助と言われますが、やはり、自分でどう判断し行動するか、自助が第一と痛感しました。

熊野市から紀宝町に続く国道42号線は、太平洋からほんの数メートルの距離です。

ボランティアの行き返りに考えたのは、「もし次の瞬間、大地震が起つたら、自分はどうするか」ということです。紀伊半島は発生後5~10分で津波がくるだろうといわれ、誰かに頼るのではなく、自分で動くしかないと思います。ですから、運転中も常に高台はどこか、どのように移動するなどを考えていました。その経験から、災害対応の際、自助、共助、公助と言われますが、やはり、自分でどう判断し行動するか、自助が第一と痛感しました。

▲道路を挟んで右は海、左は住宅地です